

令和6年度 外部評価 概要

実施趣旨

四天王寺大学・四天王寺大学短期大学部自己点検・自己評価委員会規程第6条第2項の規定及び外部評価実施要項に基づき、自己点検評価を実施するにあたっての外部有識者による意見の聴取（外部評価）を行い、教育研究水準の向上を図ることを目的として実施。

開催日時等： 令和7年1月28日（火）10時～12時 本学にて開催

外部有識者： 自治体関係 自治体市長公室室長、自治体政策企画部部長
高等教育機関 国立大学理事・副学長
企業・団体等 一般財団法人人材開発部長、
企業管理部課長、商工会事務局長

外部有識者からの主な意見・要望：

【本学の地域連携・貢献活動に対する行政からのご意見】

- ・本市と四天王寺大学は平成26年度に地域社会の発展と人材育成を目的とする包括連携協定を締結。協定に基づき地域文化や産業観光の振興、教育・人材育成、学術研究、街づくり、健康福祉など多岐にわたる分野で連携を進めている。両者で毎年行う公開シンポジウム開催、大学図書館と市図書館の協力、地域活性化プロジェクトなど、様々な事業を推進。大学関係者の本市会議、委員会等への協力など行政運営にも貢献。大学を地域のシンボルと位置付け更なる連携強化の方針。大学は地域貢献を通じて多くの人材を育成し、地域社会に良い影響を与えている。
- ・本市に大学や高等教育機関が立地しないため非常に重要な存在。少子高齢化、人口減少などの行政課題への対応や、市民の多様なニーズに応える必要があるなかで、四天王寺大学は第三者的立場から協力いただいている。今後も連携強化の意向であり特色や強みをさらに明確にすることで、連携がより有意義となることを期待。

【人材育成に関する意見】

- ・四天王寺大学は、次世代を支える教員育成に力を入れ、特に教師不足が課題となる中で、高校生に教師の魅力を伝える取り組みを行う。このような活動は私立学校全体としても重要。貴学は長い歴史の中で福祉の観点から社会を支える人材を育成してきた印象が強く、特に南河内の医療・福祉において高齢化が進む中、地域を支えるための人材育成の重要性を認識。ディプロマポリシーには自らを高め、自己分析を行うこと、さらには他者を考慮し社会を支えるという三つの柱が示され、現代の様々なリスクに対応でき

る人材を育成するために非常に意義深い。また、大学構内は広々とした学びの場であり、その拠点としての適切さを実感。

- ・コロナによる行動制限が特に若い世代に大きな影響を与えたと言われている。しかしながら、ステイホームでオンライン授業が実施され、その結果、学生の質が変化した可能性があるという意見もあるが、その変化の全てがコロナの影響とは限らない。若年層人口の減等の影響を見極め、大学教育では学生層の変化や学力の幅が広がっていることに対応するとともに、高校から大学へのつながり、就職後の学びに対しても継続的な支援が必要。特に貴学のような、独自の魅力を持つ大学は、その特性を生かしながら教育を提供していくことが求められる。また、地域に根ざした持続可能な教育が必要。その中でぜひ四天王寺大学の「やんちゃ」で勢いがあるキャラクターをどう長い目で、どう生かしていくか、貴学の特徴として育みたい。

- ・教職教育推進センターでは、教職に就くための教育が丁寧に実施され、非常に実を結んでいる。特に、理科教員免許のニーズへの対応など、社会の需要を見通した横断的な教育への取り組みが重要。また、学校の先生になりたいという強い意欲を持つ学生に対するフォローも重要。

文科省における教育方針の議論が、大学や学校現場に多くの新規課題をもたらしている。こうしたなかで、教師として大切なのは、教育が常に変化し続ける中で、新しい技術や教育方法に適応する能力。例えば、生成 AI への対応や、探究的な学びに関わる姿勢やスキルの向上が求められる。そのためにも、教師としてのキャリアの中で、常に学び続ける態度を養い、新しい知識を学ぶ力を身につけることが大事である。

【本学のキャリア支援（インターンシップ活動）に関する意見】

- ・大学の印象として大阪市内へのアクセスが少々不便。学生らは大阪市内企業とのインターンシップのマッチングの際、地理的な距離が課題。また、大学の取り組みにおいて「地域密着」のキーワードが重要視されており、学生らの出身地を考慮するなど、特に地域に根付かせる特性があると感じる。多くの学生が家業を継ぐ意向を持つことも印象的。経営学部インターンシップに協力して 7 年になる。その間、学生の質が向上したと実感。当初は学生が「やんちゃ」であったが最近はその傾向も薄れ、行儀が良くなった。ただし、他大学と比較して「やんちゃ」さ、は残っており安堵。また、地域における中小企業の人材不足が深刻であり、東京の市場が大阪に影響を与えている現状に直面している。新卒や中途社員がより高い条件で他社に移ることが増えており、地域に密着した人材育成は大学の重要な機能と強く感じる。我々も地域の人材供給に協力したい。
- ・四天王寺大学よりインターンシップを受け入れ、特に個性豊かな学生と出会う機会があ

った。当社ではインターンシップが難しくなったコロナ禍を経て、学生の反応や態度についても「教え方」の改善が必要と感じた。教育の基本的な部分（挨拶や報告の大切さなど身についている）、日本語の表現に関してもう少し向上が望まれる。24名の学生と関わり2名が就職に至る。多くの学生が将来有望。当社は、販売はただの商売ではなく顧客の問題解決に重要な意味を持つと認識し、そのため顧客へのヒアリングを重視し、提案を通じて顧客の生活に役立つことが求められる。この点は貴学の教えでもある他者を思いやりながら自己主張を大切にする姿勢は当社と共通。

【学生の印象に関する意見】

- ・日頃より大学と商工会、市役所との連携が取れていることに感謝。自身の学生時代と比べ、就職活動・資格取得支援に先生方が、温かく一生懸命取り組んでおられる様子を目の当たりにし非常に恵まれている印象。インターンシップ学生の礼儀正しさや仕事に対する真面目な姿勢に良い印象。しかし、進路に関し自分なりの考えを持てておらず、面談時に助言することがある。地元企業が抱える人材不足の問題として、若者の早期退職の傾向が見受けられるが、貴学の学生に関し懸念は少ない。資格取得も重視されており、自身の経験からもその意義を学生に伝えている。大学との連携を通じて、地域のビジネス環境の改善と人材育成を進めていくことが今後の課題。
- ・コロナ禍を経て、学生の印象が大人しくなったと感じるが増えたという意見がある。多くの学生が学生時代に様々な経験をしていないと語り、その結果、引き出しが少ないと指摘されることが多い。さらに、外出が制限される中でSNSやインターネットでの繋がりがりや情報収集が得意になっているが、そのスキルが実社会で活かされていないという印象。このような状況を踏まえ、大学では実体験機会の提供を我々との地域連携を通じた実経験により、コミュニケーション能力やメンタル強化、対人関係の構築など、大学と地域で共に取組むことで、学生たちの人間力を高められると考える。
- ・四天王寺大学の学生はインターンシップ受入れ当初に比べ、コロナ禍を経て他大学生との共同が増える中で、他大学生との交流をためらう様子などから、やや内気さが見られる。個性豊かな学生もあり多様性を感じる要素もある。
- ・コロナの影響だけでなく、就職活動のスタイルが変化を感じている。特にオファーボックスや逆流型の就活が増え、学生が企業からのオファーを待つ構図が広がっている。その結果、エントリー数は大幅に減少し、少数の応募で内定を得るケースも増えている。この変化は「就活は楽勝」といった情報を伝える影響もある一方、就活に費やす時間と費用を抑えたいと感じているのではないか。これら要因がコロナと重なり、就活の印象も変化しているのかもしれない。

- ・ インターンシップについて経営学部と平成 30 年から取組む。令和 2 年から企業に対しインターン生を採用希望のアンケートを実施。令和 2 年は 57%が「採用したい」と回答。令和 3、4 年は 70%台、令和 5、6 年には 80%台にまで上昇し企業の学生に対する評価の高まりを示しており、先生方のお世話や工夫の賜物と感じる。
- ・ コロナの前後で学生たちは様々な制限に立ち向かうなど逆境を乗り越え、強くなったと感じる。人と会えない状況において彼らは SNS など手段を駆使し耐えてきたことで、適応力が高まっていると感じる。

以上